HQ
1104
J74+

# 女學雜誌

一冊六錢

當府內無郵稅

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年 (第百四拾八號) 二月九日發

社説
憲法發布（女流に代りて之を祝し且つ之に就て望む）
論説
政治及社會改良に於ける英米婦人の景況（其二）（植村正久）
批評
春の舍主人の「細君」
叢話
才子短命○佳人多恨○スウ井フト傳（其一）（不知菴主人）○少別離○女はくよ〳〵するが長所なり
佳傳
破鏈談第二回（悲しき元日）
小説
理想紳士第二回（月の舍しのぶ）
寄書
文夗（三）（鈴木弘恭大人撰）
新報
明後日の憲法發布式○ハシカとカゼ○神前佛前に藝娼妓は横行す○名古屋の女學○女子の繪畫○倫敦東端の府民女皇陛下に歎願す○女性が女性に於ける傳道の會社○華族女學校○其他十件
外報
拿破崙三世の皇后○女丈夫十二名
小供談
豆腐の上の相撲
附録
育兒心得○婚姻説○女子讀本

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

# The Woman's Magazine.

## (JOGAKU ZASSHI.)

No. 148. FEBRUARY 9TH, 1889.



EDITORIAL:— The Issue of the Constitution.

LEADING ARTICLES:— Western Ladies and Politics. No. II. by Mr. M. Uyemura.

CRITICAL NOTES:— "Wife" by Harunoya.

MISCELLANIES:— "Short Life of many a Gifted Man." "Dear Swift." "Temporary Separation." "Woman's Proneness to be anxious about Pitty Matter is One of her best Parts."

BIOGRAPHIES. "Breaking the Fetters."

NOVELS:— "The Ideal Beau." No. II.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.



女學雜誌は日本の女性を代表す、日本の女性は女學雜誌の如くあり、亦如くなるべし、亦如くならざる可らず。日本の女性を知らんと欲せば女學雜誌を見よ、之に愛せられんと欲せば女學雜誌に愛せられよ。女學雜誌は日本婦人の分身にして、亦た其の教師、案内者、相談相手なるなり。


●京濱間女學校職員表（二十二年一月調）（其六）

○東京女子教育奬勵會（赤坂門内）

設立　明治二十一年七月十日　生徒現數　四十名

會計主任　澁澤榮一　教部主任　外山正一

事務主任　増島六一郎　書記　菊地武信

簿記方　仲田慶三郎

教員　ミッセス、ラークス○ミス、マアクレエ○ミス、バルテエル○ミス、パアーカアー○ミス、ブリストウ○ミッセス、マアク、リード○物集高見○阪正臣

○東京女學（芝區南佐久間町二丁目一番地）

設立　明治二十年七月四日　生徒現數　二百十六名

校長　伯爵庭田胤子　舍監　子爵慈光寺晨子

校主　大橋盛一　取締　甫喜山とめ子

教員　ミス、カクラン○ミッセス、イビー○伊藤まさ子○水澤つぐ子○徳田しん子○澤ため子○伊東ます子○原あさ子○宮原きん子

講師　醫學士竹中成憲○文學士杉江輔人○文學士板倉銀之助○三村邦巧○渥美正幹


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第百四十八號 明治二十二年二月九日發兌

# 社説

## ○憲法發布、

### 女流に代りて之を祝し且つ之に就て望む。

明治二十二年二月十一日、即はち明後日の紀元節に於ては、日本開闢以來絶大の祝すべき事ぞ現はるべし、蓋は最早改めて申す迄もなく大凡そ帝國の津々浦々に迄で聞え渡れるごとくに、彼の三千九百萬民が待ちに相待ちたる憲法發布の公式執り行はるべきもの也。

文武聖明なる我が日本國　皇帝陛下が、右の憲法に於て下し賜はる所ろの條々なるものは、果して何程の御恩にてある乎、此は是れ明後日午前十時　皇帝陛下が式場内大臣三條實美侯が捧ぐる所ろのものを甘納あらせられ、則はち之を總理大臣黒田淸隆伯に授け、百官有司議長總代の面前に於て公布あらしめ玉ふ所ろのものを拜聽したる後にあらずば、固より其の一點一畫をだも揣摩臆測し奉るべきにあらず、吾人は謹んで之を待ち、其後に於て尤も深く奉謝の微衷を表白し奉つらんとは思ふもの也。然りと云へども、　皇帝陛下が國家統治の憲法を欽定あらしめ玉ふて、其の大御治世の大則を民に知らしめ玉ふと云ふ事は、是れ其丈に於て既に古今稀世の大恩德なるが故に、吾人は未だ其の憲法の何如なるものたるかを拜承せざる内に、先づ此の大恩德を望み見て謹謝せざるを得ざると也。

固より明後日の事あらんを願ひて、從來、數多の義人は涙を流したりし也、熱血を流したりし也、彼等が心は之が爲に破れ、彼等が骨は之が爲に碎けたり、彼の深夜人悉とく眠りたるの後ち、暗燈の下に屈伏して血汗を流しつゝ祈禱したる所ろのものより、友に賣られ同志者に背かれ獨り貧困多難の界ひに節を守りて、自由の鬼と爲りたるものに至る迄で、大凡そ明後日あらんを熱望して困苦したるもの固より多し、彼等が或は幽界に於て或は現世に於て、此の明後日と云へる大紀元日を開て躍り舞ふとの切なるよりも、日本國民は先づ立つて彼等が爲に謝意を表するの信義に切あるとを要す、吾人は則はち其の一人として、玆に尤も深く之を謝するもの也。然りと雖ども彼等が功勞は　帝室より下し賜はる大恩德の無量なるに報ゆるなか〱に萬一にだに足らず、切言するに此度の大惠は皆是れ　帝室より出もの也、皆是れ我文武聖明なる



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

皇帝陛下より出るもの也、故に彼の數多の義人が幽明の兩界より均しく共に立つて之を謝し奉まつる如くに、日本三千九百萬の同胞士民が皆均しく共に立つて之を謝し奉まつる如くに、吾人も亦た遙かに宮城を拜して恐惶して玆み之を謝し奉まつるもの也。

抑そも我が日本國の帝室は東西萬國の中に比類なきもの也、神武皇帝都を橿原に開かせ玉ふてより、立國二千五百四十九年、皇統連綿として蜻蛉洲內半日だも天津日嗣の治し召し玉わざりしとはあらず、恐れ多くも極尊に非望を懷きたるものもありき左れど彼等は倏忽として失せたり、恐れ多くも極明を罔塵せしめ奉まつりしものもありき左れど彼等は倏忽として亡びたり、六雄八將は露の如くに消え武門將軍は霞の如くに散じ、外寇は碎け外夷は服し神洲君子國の芳名は千歲の昔しより万歲の後に至る迄で轟ろき渡りぬ。我等日本の士民は我等が祖先が昔しの帝室に士民たりし如く今の帝室に向つての士民たり、我等が仕へ奉まつるの微衷は啻に直接に今の帝室に結び固めらるゝの因緣にあらず、我等が幾億萬の祖先と共に横に結び固められつゝ而して人皇一百二十一代の帝室を通して縱に結び固めらるゝの大因緣あるなり。之を以て我が万世一統なる帝室は、彼の叛臣をして自殺せしめ、彼の逆臣をして自亡せしめ、彼の外夷をして服せしめ彼の外寇をして破れしめ、而して彼の六雄八將武門將軍が決して此の國民を治むると能はざるの上に卓立して、嚴乎確乎、屹然として億兆の望む所ろを安んじ、古來幾多の大暗黑を徹して此の士民を誘導し愛撫し統治し玉ひつるなり。左れば率土の濱も王土にあらざるはなき也、然るに　陛下は之を士民に分ち玉ひたりき、與奪の權も王の手にあらざるはなき也、然るに　陛下は之を士民に與へて士民をして自から守らしめ玉ひたりき、君主獨裁の世は法刑は一に王の心にある也、然るに　陛下は千万の細則を士民に下して士民をして自から安んぜしめ玉ひたりき、然るに今や亦た其の大政の權を士民全躰に分ち、之よりして民をして自から議し自から治め自から立ち自から制せしめ、而して之が總治の大御勞を親から執らせ玉はんとするに至る、陛下が光德は天の高きが如く高く地の厚きが如く厚し、惣じて此等の御惠みの源は悉く帝室に存す、帝室の德至れる哉至れる哉。

帝室の德は斯の如くに洪大なり、而して亦た尤も公明正大なり、其の德の恩波を蒙むるものは、高きも低きも老ひたるも



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

若きも又た男も女も主人も奴隷も皆あ一様にてある也、一様に之によりて其の德を戴だき、一様に之によりて其の權を與へられ、則はち　陛下の御前に出でては同一に憲法の御惠みの下に立つもの也、左らば日本國民の總ては其の下に於て一齊に一列するもの也、同じき距離に於て龍顔を拜し奉まつるもの也、此に於て吾等が　陛下を戴くは敢て圓錐形を躰とせず、三千九百万民左右に手を繋ぎて一大環を造り、遥かに上天に立せ玉ふ所の　皇帝陛下を同時に仰ぎ奉まつる者也。苟くも如此なるの聖意を奉躰するものは、高きものは之よりして低きものを慈しむべし、老ひたるものは之よりして若きものを重んずべし、主人は之よりして奴隷を憫れむべし、尤も切望すべきは男は之よりして女を優待すべきもの也、我が万乘至尊の　皇帝陛下は親から其の特權を減がせて之を士民に分ち玉へり、之が士民たるもの安んぞ勝手我儘に從來の不信切を行ふべきぞ、切に思へ、日本帝國中一人にても我が皇帝陛下の爲に愛されざるものはなきぞ、即はち何人にても皆な是れ　陛下の愛子なるぞ、左らば何者か暴りに他を侵して他を輕んずることを得べき、若し苟くも敢てせば、之れ即はち、　陛下の聖意を奉躰せざるもの也、　陛下の高德を破るもの也、　陛下の御愛の行わるゝを妨たぐるもの也、切言するに彼は既でに　陛下に背きたるの暴民叛民たる也。况はんや男女一躰あるべしとの天法嚴立せられ、夫婦和樂すべしとの人法明定せられ、而して我　皇帝陛下は　皇后陛下と共に立つて此の大憲法を發布あらせ玉ふの後に於て、彼の男が女を壓し夫が婦を制するが如き大不吉の悪行あるをや。

終りに至りて申す、我が淑德慈仁なる　皇后陛下は共與に明後日の發布式場に臨ませられて、恭うやしく　皇帝陛下を補佐し玉ふ也、則ち特に日本幾多の女性に對はせて其謝意を納受あらしめ玉ふらんと測られ奉まつる。左れば我が一千九百餘万の姉妹諸君は、尤も謹貞に尤も温切に此の古今類なきの大恩德を謝し奉つり、且つ特に　皇后陛下に據りて最と厚つく其の謝意を表し奉まつるべし、吾人不肖と云へども玆に自から姉妹諸君に代り、先づ謹んで之を奉謝するもの也。

左れば終末に至りて特に全國の女學校及び女學會の校生會員諸君及び一汎の姉妹諸君に告ぐ、此日即はち尤も祝すべく尤も謝すべく尤も記念すべきの明治二十二年二月十一日に於ては、全國相通じて其の祝會謝會記念會を開らくことを要す、從來我婦女子には公事に屬するの志想に欠たり、更らに切に國

家と云へるの志想に欠たり、故に今后すべての公祭國祭に於ては成るべく盛んなる祭事を催うして此の欠たるの志想を養うを要す、是れ吾人平素の意見にして數たゝび之を論ぜり、然りと云へども明后日に於て亦た女流社會に此如き大祝祭を催うすべきを切望する所以んの者は豈にたゞに如此き敎育的の意見あるが爲めのみならんや、彼の日は是れ尤も祝すべく尤も謝すべく尤も記念すべき、日本開闢以來未だ類あらざるの大紀元節にてある也。　兩陛下は國民全躰に向つて至大至榮の憲法を發布あらせ玉ふ也、而して我が一千九百餘万の女性中もし一人にても別に顏ばせを反けて空々寂々たるが如きものあらば、之れ日本の女性惣躰に取りて幾千の不忠不貞なるぞや。姉妹諸君、彼の日は宜しく針を止むべし、宜しく書籍を閉づべし、或は庖厨を片付け、縫物を仕舞ひ、一室を淸らかに掃除し、良人愛子ともに團欒して感謝會を開くべし、或は女學會塲に或は女學校前に、數本の國旗を掲げ、會員校生ともに集會して聖意高德を述べ、或は歌を謠ひ樂を奏し纎手を共に捧げ美音を共に高くし以て一齊に感謝の意を表すべき也、春風和暖、國旗翩翻、彼の日は抑そも如何に樂しかるらん。吾人は朝天第十時、謹んで女學雜誌社樓上に於て感謝し且つ後來の冥福を祈禱せんと欲するもの也。



## 論　說

### ○政治及び社會改良に於ける英米婦人の景況（其二）

植村正久

然るに又た婦人がいろ〳〵と謀つて盡力しても、政治が男子の手にのみ在るときは之れ亦た燒石に水の如くで、中々眞成の改良が出來ぬ、たゞ男計りが政治を執つて居つては決して出來ぬ、固より今ま男女同權の事を云つて女が威張ると云ふのではない、然し目前の樣子、即ち彼女郎を救ふ、食物が食へずして市中に徘徊する女を救ふ、酒に醉ひ醉ひて男と不埒の事をする女を救ふと云ふやうな、目前よ迫る所ろの改良法を行はんとして熱心に盡力するとき、遂に行き當る所ろの一妨害は、即はち政治の權が悉とく男子の手に在ると云ふとである、故に人を救へねば成らぬと云ふ女の熱心なる改良家も、彼の政權に關するの力を得ざるときは遂に功を奏せぬと云ふ樣なとに成るのです。然るに此迄の政治は實に亂暴なもので、若し從來の政治の歷史を評するときは、人の國を奪ひ軍艦を造り、ある國が彼の島を取りしゆへに吾も此の島を取

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

んと云ふの政治であつて、即はち此迄はビスマークの政治、ナポレヲンの政治、グラッドストンの政治であつた、不道德なる政治、世の中の悪風を矯めぬ所ろの政治、權謀の政治、蘇秦張儀の政治、合從連衡を計る所ろの政治であつた。此の如き政治の行わるゝ間だは、決して社會の改良は出來ぬ、故に今日政治上の必要は、政論の部内に道德と淸きと正しきと眞なるとを入るゝにあり、而して其の精神の入るは男の中にワシントン、ブライトの如き人が多く出るに由ることである即はち男子の中にも之が爲めに大勢力ある者を出すとだが、其中に尤も大ひある感化を與ふるは、即はちキリスト教を信ずる所ろの婦人社會であります。

是迄で國會議員を撰擧するは皆な男子であつた、然るに撰ばるゝものが撰ぶもの丶氣に入らうとするは自然の事であるから、是迄はたゞ撰擧をする所ろの男子の氣に入るやうにのみしたとである、而して其の男子は何を考へたか、勿論高尙の事も考へたらう、然し家の內の事、子供の事、女の事、貧乏人の事此等は先づ彼等が心の中にチルスに成る、氣が附かぬ、或はわざ〳〵氣をつけぬ人もある、故に此の如き男子の心に隨つて政治を議する議員の爲す所ろも亦大方此の類である。

然るにもし女が出て丶女が議員を撰擧するときは、即はち女の心に適ふ所ろの議員も出づるやうに成る、即はち女の希望も願ひも求めも幾分か行われ易くなる、而して其中に本當の改良が行わるゝに至る、故に眞成の改良を行わんとには女が議員を撰擧するの力を得ねば成らぬと云ふ、之が女の撰擧權を得たいと云ふ所以である、此他に尙ほ色々の議論もあるが、先づ大躰の一大元因は社會の改良の爲に女が撰擧權を得んとするのである、之を以て新聞紙にも演說にもかまびしくして今日の如くに盛んに議論するに至つた。

英國にも米國にも此の議論が未だ勝利を得ない、然しカナダのトロントには市會の議員を撰擧するの權が女に與へられてある、又英吉利と愛兒蘭との間のアイル、チフ、メンと云ふ小さき島には女が島の議員を撰擧するの權を受て居る、合衆國にも市會の議員を撰擧するの權が女に授けられたる所ろがあるです、然し此等は皆な小さい、たゞ段々と追々と進むので、之は其の糸口である。然し玆にモット大ひなる進步と云ふはロンドンのスクールボールドと云ふ學務委員會の議員の事である、倫敦の人口は凡そ五百萬あつて、其人口には固より多くの子供がある、シテ其の夥たゞしき子供を敎育する學校が



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

多くあるが、其學校の事務を相談して、敎育には聖書を用ゆべきか否や、祈禱を爲さすべきか否や、音樂の敎授方は如何すべきか否や、と云ふやうな色々の敎育上の問題がある、日本では學務委員と云つても詰らぬが、ロンドン五百万の人口の學校事務を協議し、其存廢向背を任ずる所ろの此スクール、ボールドは實に重いものである、其の議員には立派な紳士博士も撰ばれて居る、國會議員も其中にある、此の中に私が彼の地に參つたころ三人の女子が撰ばれて居ました。然るに去十一月の初めには此學務委員の總撰擧改撰がありました、其時に女で撰擧を爭ひましたウエブストルと云ふ婦人があつた、撰擧人を得やうとして此婦人が或る所ろで演說しましたから、私しは行つて見ました、其時ウエブストルは色々と自己の敎育上の意見を演べたあとで此の說に付きモット質問したいと云ふ人があらば質問なさいと云つた、斯る時には常談半分で問かくる人もあり、又熱心に質問する人もあるが、中に其時一人が立つて問ひました、其の問に私は自分に一人の子供もありません、然るに學校の爲に年々金を拂ふのは詰らぬ、之は不公平ではありませんかと、常談半分に問ひましたが、スルト彼のウエブストルが答へますのに、成程御尤もではあるが、アナタは牢屋に行とをお嫌ひでも、其入費は政府に收めなさるではありませんかと答へた、此は一寸した小さき事であるが、此談しによつて其時の摸樣が推察せらるゝでせう、斯の如くに婦人が撰擧界に爭ふに至り、又撰擧權を得んとするとに付ては大ひに運動するに至りました。故に之は遠からず、政治家が何れも此問題に付てどうにか心を定めねば成らぬと云時が來ませう、之れが即はち今日英米に於ける婦人が社會改良に對する運動の一班であります。

之に就て、女が社會改良などの事に騷々しくするは善ない、政治に關するは善ないと云ふ議論が色々ある、今日之を一々に申して双方の議論を較べて云ふとは出來ぬ、然し一寸と例を擧て申し置きたいとは、定めしアナタ方は今まで頭から血が出て居るものを見れば必らず痛まるゝであらう、若しウミ汁が流れ出るものを見れば必らず顏をしかめなさるで有う、凡そ女が劍を拔く、戰爭に出ると云ふ、此等の事は女の性質に似合ぬやうに思し召すであらう、又女が紅ゐの血を見て恐れるのも尤もである。然し嘗つてイギリスとロシアとの戰爭のあつた時に、フロレンスナイチンゲールとレブー、メンイ、スタンレーと云ふウエストミンスターのヂーンの妻の二


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人が先に立ち、クライミヤに臨み、黒海のほとりなるクライミヤにいたり、血の流るゝ間に怪我人を抱き、うめく中に働らき、叫び聲の聞ゆる中に藥を塗り、鐵砲の音のきこゆる中で眠つたが、誰も之をとがめぬ、即はち血の流るゝ中にも、玉の飛ぶ中にも、人がうめく中にも、婦人は婦人たるの性質を以て働らいた、鐵砲を以ては働らかなかつた、即はち其の固有に持つ所ろの力を以て働らいた、かく持前の力にて働らきナイチンゲールもスタンレーも之が爲に彌よ立派の婦人と爲りました。故に仕事、議論、其れ自らは女をして女たるとを失わしむるものでない、たゞ其働らき方によつて男と女とに別るゝとが出來る、韓信がイクサも、蕭何がイクサもある、仕方は違つたが二人ともに戰つて居つた、斯の如く此の世界に戰つて惡風を改良するには男子の力も入る然し亦た女子の力を盡す可き所ろが澤山にある。故に男と女とは同じとをするのではない、同じ目的を以て働らく、同じ精神を持て持前の力を以て夫々に働らくのである、之が即はち西洋にも日本にも必要の覺悟でせう。日本では固よりスグ此の如き撰擧權を得るとハ出來ぬ、男子にすら未だ得ないほどですから、夫に今日の日本の女には未だ得ない方が或は善かも知れぬ、然し之より吾々が女學校の事を考ゆるとき、又た女學校に於てアナタ方が修業するとき、女はたゞ家を設けて子を生むのみであると思ふては實に成らぬ。學術にせよ、宗教にせよ、また政治にせよ、女が力を盡すべき所ろ萬端である、固より鐵砲を打ち、牢屋の番をせしめようとは云はぬ、然し外に神より賜わりし所ろの女の力によりて働らくべきとが澤山である。此の如きに進む英米の風潮は爭ふ可らざるとて、其勢ひは駸々として行く、日本にも必らず將來は其樣に爲るであらう其の積りで女子敎育を論ぜねばなるまい。

之に付て一言したい、私しが一言するとを急ぐ所ろの早く申したいと思ふ所ろの事がある、即はち男女同權論のとで、之には色々の解釋あり、一概に廣く考ふれば六かしひ問題であるが、然し茲に明白なる男女同權論がある、即はち男も女も同一の道德を行ふべしと云ふ事、道德上の義務責任は男女ともに同一だと云ふ事、もし女が淫奔をして惡ければ男が女郎買をするも惡し、女が不埒をするとが宜しからねば男も亦た不埒は出來ぬ、男女の交際、男女間の關係に付ては男も女も道德上の責めが同一であると云ふ事である。故に諸君が段々と政權を得るの日に至らんとを望むが、尤とも望む所ろは先

ず右に云ふ所ろの同權論で、即はち女子が其の己を責る所を以て男子をも責ると云ふ決心が十分にありたいとである、女の身持の悪いのをとがむるの心を以て亦た男子と交り其の身持の悪いのを責める、若し今の貴女と稱する人々が女郎と交際せぬならば即ち亦女郎に交わりし所ろの人と交際せぬと云ふ、此の覺悟が欲しひ、もし不都合の女が社會から退けらるゝならば男子の不都合なものも亦退けねば成らぬと云ふ、此心を貯はふるが即ち日本の女權を進むるの大根本とならう。實に人間の政府の前で權利の同等なるは小さいとである外に巍然屹立し居る本躰の影である其本躰とは何であるか即ち男子女子の差別無く道徳上義務の同じ尺度を以て測らるゝと云ふとです此眞理を深く胸中に收め其精神を確かにするときは女子が立派になるとも更に期して待つべきである、此學校もアナタ方も何卒此の一事をよく覺悟して戴きたい。(完)

## 批評

○春の舍主人の「細君」　　あだし野の友

國民之友本年初刊の雜誌には餘程面白きものを附錄としたり之は數ヶ月前より兼て用意して日本現今の文華を取集めたるものとの高らか〳〵の廣告なり、一讀し一見するに成程の出來なり、特に美妙齋が「蝴蝶」春の舍が「細君」の二小説は、苟くも今の文學社會に注目するものが批評せねば成らぬものにて善かれ悪かれに拘はず一應の意見を申さでは濟まぬ、何にと云ふに美妙齋は「實の處ろこれこそ主人が精一杯に作つた作で是が今の主人の實の腕で善悪に關せず世間の批評をば十分に頂戴したい」と覺悟を極められ、春の舍は此の「細君」を以て殆んど離縁状の如くに見做し此後は最早小説を書かぬと云ひ居らるゝよしに承はる故なり、美妙齋に取ては新駒が顏觸の大勉強、春の舍に取ては一世一代の名殘の處作となれば苟くも文學の舞臺を見物する者は兎角の評判を申さねば成らぬ。一々に評すれば、蝴蝶は反つて「武藏野」に劣る如く、細君は他の春の舍小説と趣きを異にせり、合せて評すれば、美妙齋は栴檀の二葉の如し靈玄なる香ひはチョイ〳〵と香へども未だお若い〳〵然し若し十分に成長すれば千里に馥郁たるの大香木となるべし、春の舍は大木の松の如しなか〳〵手堅く出來て老練の跡は見ゆる然し迚も之から華麗なる花は咲ますまい、望む所ろは二葉が早く延たがりて霜雪に催かれぬとなり又た老木が硬まりて古色掬すべきの化石と相成ると也。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二小説を批評するに付ては先づ春の舍が「細君」より初むべし之は餘程骨を折られたる跡が見ゆる、事實は確かなる實事にて其人未だ去らずとか申す若し其人に比較して此の小説中の人物を評すれば定めし面白からんが余は之を知らぬに付致し方なし只だ心理學と人情論に訴へて一言いたす。

趣向の上にて感服するは第一に園と云ふ下婢第二に猫と云ふ家畜以上二つの傍を出して主人公を描がくの助けとせられたると實に老手と云ふべし。文章の上にて感服するは極めて淡泊なる平文躰を用ひ成るべく餘音嫋々たるてふ覺醒的の文字を使はれたると實に秀才と云ふべし。照應の上にて感服するは用意尤も愼密にて平々凡々と叙し去つたる前段の叙事が後に至りて一々に手應へあると實に才筆と云ふべし。情を寫すの上にて感服するは寸言よく急所を刺し例へば下河邊が平生の不快を一時に迸出せしむる如きお種が負惜しみ我滿の氣質によつて我知らず不平ならしむる如き老父が子に甘く世話になるを謝するの念より極めて愚ならしむる如き繼母が平生は義を守り事あるに至つて邪推の奴隷たる如きお園が淡泊なる子供らしき推察と子供らしき決心とに由て遂に殘酷なる最期を遂たる如き皆能く夫々の情を寫せり實に老練と云べし。

試みに「細君」四編中の極めて佳なる所ろを擧れば、老父が婿を褒むるを評して、

父の氣質一年毎に我も弱り今を譏り昔を慕ひし其口は何處へやら滅法に若い者を褒めそやすも娘の緣に繫がれて也

種が問の悪さに猫をかき寄せ繼母が腹立まぎれに猫を叱る所ろを寫して、

それと知つてゴロつく猫を手持なさにかき寄すれどすり脱けて驅け行けば「エイうるさい」と例になく手荒く前にはね飛し……

種が良人の無理ある論辨に胸も塞がり泣出したさを呑こみ噛しめ、遂に

さう仰しやるはアナタが無法

此の胸裏の一言千萬斤の重みありと云ふべし。其他第三回とつおいつの冒頭、紫の雲靉靆と棚びきより別けて長閑なる胸の上は彼の神得意のお旅所なり迄ては幽玄靈高其辭ば莊詞を讀むに似たり。又種が心中の憂や悶やを寫して、さるにても何が爲に夫人は離緣を思ひ立ちしかの一段、彼が如き女學生の不快を寫し得て妙と云ふべし。

然し亦た過失なきにあらず之れ弘法も筆の誤りあるに由ると



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

辨じても左らばとて之を見逃すべきにあらず、先づ園と云ふ下女が前方下宿屋に奉公せしと云ふは善し前後比較の爲に幾分か下宿屋の躰裁を述るも善し然し乍ら第五五頁下段に於ける如くわざ〳〵とく〴〵しき來歷を述るは殆んど無用の事あり春の舍主人が小說には兎角此の誤り多し願くは談し家流の來歷談を敍することを謹しめよ。次には老父が愚なる所ろ下河邊が癇癪を起せしところ何れも癖と云ふものを以て充滿し兩人とも殆んど其の癖丈けで運動する如し生きたる人間は決して斯るものにあらじ。次には園がつくねんとして獨り女中部屋にある所ろ鼠をコワガルと云ふは面白し然るに障子を開けて之を追ふと云ふとすら既に過たる言分あるに「膳棚を襲へば梁を走り梁をおそへば」と云ふに至つては過言も亦た極まれりと云ふべし。娘が而も尤も重んじ居る所ろの娘が「折入てお願がござりまして」と云ふにも係らず何如に耳が遠く何如にお世辭を言ふの途中なりとも全く之を聞かずして他事をシャベルとは此の老父にあるまじきこと也。大抵此類の失策隨分に少なからず。

固より主人の筆は老筆あり何如に惡口を言ふものありとも到底今の小說家の頭取なり大關なり成程外に一部分に於ては優りたる者もあらんが然し此の主人の如く能く行渡り行屆きて意と筆との甘まく運はるものはあらじ余はほと〳〵之に感服する也、然し此の感服と共に實に主人に絕望するものあり何ぞや主人が一般の觀察に富みて格部の觀察に乏しきこと、及び其の道德上の觀念の實に卑しきこと是れ也。試みに多くある主人が小說を通讀すべし其の一般の觀察に就ては隨分に至れるなり例へば人が悲しむ時には斯る顏附をするとか人が喜こぶ時には斯る面躰をするとか云ふ如き凡そ十人が十人に通じてある所ろの樣姿に至りては主人よく微を穿ちて之を寫せり然し其の一人一人に存する所ろの各種各別なる樣姿及び情緒に至ては主人が目に屆かざる如し試みに二葉亭の小說を見よ其中の人物一人〳〵に違へり然し春の舍の小說には一人〳〵に似たる所ろあり若し似ざる所ろありと云はゞ是れ即はち非常なる癖と云ふものを之に冠らせたるに由る也、又其の道德上の觀念に至ては實に卑し蓋し主人は未だ高尙なる紳士貴婦人の心術を知らざるものか主人が小說中に嘗て良心と情慾との戰鬪を寫したる所ろありや左なきだに尙ほ折々極めて下卑たる哲學論を插はさみ世上の高尙なる觀念を雜作もなく打破らんとするに至ては抑そも何事ぞや人は决して天の使にあらず



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其の肉を有する如くに亦た卑しき情慾を懐けり然れども亦た其の禽獣にあらざる如くに人々一種の高尚なる良心を所持せり假令ひ立派なる聖人は世に少なしとも罪悪の爲に苦痛慨歎して正義を慣ほり求むるものは随分に少なからぬ也否な少なからぬ位ひにあらず人々皆な多少は其の念を有すと云ふべし然るに主人は一度も此に觸れず主人の筆の如きは只だ其着物を寫すのみ其の肉を寫すのみ其の情慾を寫すのみ未だ堂に入て最深最高の魂しひを寫すとを得ざるもの也。

## 叢話

### ○才子短命

もみぢ

才子短命の一句は、年少の俊才を吊らひたる滿天下の悲しき聲なり、世に歎ずべきもの頗ぶる多し、左れど後年に望み多き才子の短命なりしほどに歎ずべきはあらざる也。學ぶ所ろ極めて深く、養ふ所ろ素より切、窃かに當世に慨歎して卒焉將に起んとす、此時西方の死風颯然として來り、玉花砕けて才子は死したるあり、天道是か非か、之れを疑はざるを得ず、抑そも天道は善に進まんとするや否や、之れを疑はざるを得ず。

然れども是れ上帝の極めて全能なる所以んなり、上帝の大事業も一才子の手によりて増減あらば、上帝は必らず才子を死し玉はじ、然れども全世界を聳動するの大才子も倚ほ天道の進行を左右する能はず、强盗巨賊魔軍の如くに増殖すとも天道は依然として善に進むべし、聖人山に死し仁者谷に埋めらるゝと雖ども天道は亦依然として善に進むべし、一才子一俊才の短命果た何事かあらん哉。

然れども是れ更らに上帝の極めて博愛なる所以んなり、緑兒の俄然として死する、才子が忽焉として亡ぶる、固より慘澹の事なり、然れども其の慘澹たるは之を見るの人に於て慘澹たるのみ死亡するの人に於て毫末も怨みなし。彼は半日の命に於て一生の事を爲しぬ、彼は學窓の研究に於て一生の事を了りぬ、彼等が一生は白髪の老人の如くに既に終りたるあり、世路遥遠、百歩は五十歩に異なると少なし、安んぞ緑兒の夭折才子の短命に命を短かしと云はんや。之を以て死亡するものは則はち笑つて死したる也、但だ之を見るの人に於て慘澹たりとせらる。

見て之れを慘澹なりとせしむるは上帝博愛の教へある所以んなり、才子にして短命ならず、善正の事業必らず其の一生に

於て成るか、余は之を見て驕然として天に誇り、事業の成る亦た天を待むに足らずと思はん、然るに上帝は能く才子を死す、而して能く其の正大の大事業を進め玉ふなり、此を以て余は能く天に謙くだるを知り、此を以て余はたゞ天の僕たるを得る也。嗚呼余の事業は未だ成らず、然れども今日に於て死するも敢て恨まず、假令ひ蜉蝣の半生を受るも余が行若し道に從ひし歟余が一生は實に價値ありし、余の事業否な天の事業は必らずや成るべし、朝たに道を行ふ夕べに死すとも可也。

基督の手は能く病人を醫やせり、然れども其の手は果して幾人を醫やしたりしや、基督の命は能く暴風を鎭めたり、然れども其命は果して幾船舶を救ひたりしや、基督の傳道は力ありき、然れども其の聲は果して小亞細亞を出しや、基督の愛は能く困苦するものを救へり、然れども其の愛は果して羅馬政下の束縛を破りし乎、彼は三十年市に隠れたり、一と度び世に出てゝ後ち四歳ならずして死せり、若し不世出の才を懐き事を爲さずして死したる尤も痛絶あるものを問はゞ、則はち基督ならん、不世出の才を懷き世に働らくと極めて短かゝりし尤も短命なるものを問はゞ即はち基督ならん、基督は果して短命ありしや實に短命なりき、基督は多く世に爲さゞりしや實に多く爲さゞりし、然らば則ち汝ち之を憾むか、否な。

○佳人多恨　かすみ

嵐に散らんずる山櫻よ汝ちは九重に香わざりしとの定めて恨めしからん、冷やかある苔の下の藤袴よ汝ちは君子に見出されざりしとの定めて恨めしからん、春風に誘はれてはづかしくも綻ろびたる花には醜くき山蜂が蜜を探るなり、清く澄める山河の水を心なき雄牛は土足を没して流れを濁すなり、最と麗はしき聲を放てる鶯、君には梅のなきか何とて藪の中には鳴き玉ふ、さみしげに舞ふ胡蝶君には戯むるべき友のなきか、何とて勢ほひあく枯草を動かすぞ、哀れなるは尾上の鹿の聲たゞなきに泣て答ふるものもなく、猿猴のさわがしう叫ぶも何かの恨みありとは聞ゆるあり、昨日の山櫻には月を見で今宵の明月に映すべき流れはあらず、郎よ郎よ何とて斯く妾と合ひ玉はぬ、妾が心は君を動かすに足らず、君が恩顔は妾を喜ばすに足らず、萬斛の痛恨は歌を誦していよ〳〵深く、千行の涙は詩を聞てます〳〵長し、過厂一聲月三更、一聲の厂は一群に和し月は獨り魂が臨みて最と恨めし氣なり。

余は不满足の心を有するを謝す何んとなれば是れ此の心は現世よりも美なるとを知ればなり。（女學子）

○スウヰフト傳（其一）　不知庵主人

もしや草紙の批評を讀給ひし方々は必らずスウヰフト氏の名を記臆せらるゝならん。氏は英國第一流の文學者にして今に到り猶ほ畏敬せらる。余が本傳を草するは此機會を借て希世ある大文學者を披露せんが爲めあり。さは云へ七十有餘年の生涯、珍談逸事を一々錄さんには數四の號を重ねて悉すべきにあらず。唯其概略を記し、小說好にして英文學の一斑だに御承知ある令孃方の御覽に供ふるのみ（妾は既に知れりと仰せらるゝ方々はあちらむいて主人が不敬を咎め玉ひそ）。

Life is the farce, the world a jest（人生兒戲の如く世界は笑謔に似たり）。嗚呼此語を爲す者、問ずして卓犖高奇の人たるを知る。遠く求むれば莊周が寓言東方朔が滑稽の如き、諷誡を以て聞ゆるもの乏しきにあらず。近く伴蒿蹊が畸人傳を繙けば、笑て一生を送るもの少きにあらず。されど滑稽の中に人生を嘲り、諧謔の間に世界を諷し、王侯貴人をして惴々焉として其の鼻息を覗はしめしもの、唯スウヰフト氏あるのみ。其傑作ガリバー巡島記の如き—氏の名を知ると知らざるとを論ぜず—皆是を愛讀し、机右に備へ文學の師範となし、世路の針砭となす。今を去る二百年の往日に生れ、名聲此の如く燦然たるもの、豈夫れ偶然ならんや。

ジョナサン、スウヰフト（Jonathan Swift）氏は千六百六十七年十一月三十日愛爾蘭ダブリン府に生る。其生るゝやカールの兵士其家室に亂入し氏が搖籃を騒がす。其後乳母が鄕土ホワイトハベンに到り、五才の時ダブリン府に歸る。氏の父は氏が出生に先だちて病歿し。氏は母と共に伯父ゴッドウヰンの扶持を受。然るに伯父は吝慳にして其支給も充分ならず。氏は垂髫にして既に浮世の辛酸を試め、天性の豪宕不羈は此時より萌芽せり。六歲の時キルケンニーの小學に入る（當時小學生徒の風習に從ふて氏が其名を刻みし机今に到て來弔者の觀に供すといふ）。十四歲にしてダブリン府トリニチー大學に入、二年を經て給費生とある。當時論理學最も盛にして科程の大主要を占め、アリストートルの註釋を諳んぜざれば及第する事難かりしに氏は是を嫌ひて顧みざりき。蓋し氏は苦辛して讀書するを嫌ひ、寧ろ娛樂の爲に披閱し、廣く知識を得んと熱中したれば。縱令深奧ならざるも宏博ある事は遥に衆生の上に出たり。殊に歷史詩學に通曉せしは其著を見ても知る。氏が奇才は此時既に胸腔を洩れて、折々は演說となって仝輩或は

大學役員を諷喩する事ありし。されども其品行は亂暴狼藉にして、科程を怠るのみか、屢々茶店に投じ珈琲館を訪ふたりしが。千六百八十五年二月十三日技藝士(B. A.)の學位を受けたり。此時より氏が不行跡は益甚しく會堂に出席せず、講義を參聽せず、出席點呼に應ぜずして罰せらるゝ事七十度を過れども毫も忌憚する所なく、教授役員を嘲弄する事愈よ募る。リチャードソン氏傳ふる處に依れば、氏は嘲弄の演説をなして退學を命ぜられしと。千六百八十八年戰歷愛爾蘭に起る。氏此時二十一歳、學識なきにあらざれど、學識に富むの評判もなく。唯亂暴不行跡の名を博し、一人の是を助くるものなければ、單獨徒歩して愛爾蘭を去り、レセスターシャイアなる母の許を訪ひ、少しの緣故を求めてサーウヰリヤムテンプル氏に賴る。ウヰリアム王のムアパーク(サーウヰリヤムの住地)に行幸せられし時、氏は謁見の榮を賜はれり。千六百九十二年學士號を得んとてオックスフォードに游び、仝年七月五日許さる。此時氏が詩想漸く盛んにして初て詩作を試みしといふ。其後二年を經て愛爾蘭キルートに到り、一年百磅の俸給を得て田舍牧師と爲る。僅かにして再びムアパークに到りテンプル氏の執事、寧ろ相談役となり、信盟日に厚し。其頃古今學藝何れか優れるの論大陸に起り。佛蘭西より終に英吉利に到り、辨難攻擊頗る激しく。ウオットン氏は古今學問辨を著はし當時を辨護し、テンプル氏は是を反駁し、彼れ應じ此れ答へ、學者社會大に振盪せし時、氏は書籍の戰爭を著はしテンプル氏を贊助せり。是れ氏が初作にして其滑稽諷誡に富贍なるは一讀徵すべきなり。

○少　別　離　　某の妻

快ち好き温泉にても久しく逗入つて居ますれば何とも感ぜぬやうに相成候それらと同じ意味に候か兼ては隨分に好でありました良人でも毎日〱同じお顏を拜見して居ますと何だか餘り有がたくもないやうに思つて參つて勿躰なきと乍らいろ〱の妄想を起す樣に相成候然るに五六日他所に參り慣れぬ景色を見たり知らぬ人々にお目にかゝると初めて良人の事が有がたく思出され候どうも我夫の如き信切なお方は無いどうも我夫の如き善いお方は無い實に〱世の中で我夫ほどに妾を愛して下さる方は無いと思はれ目新らしき景色を見てそこらが自然とさみしきに連てわゝ〱我夫が居玉はいさぞかし樂しかるべきにと思はれ一と週りの遊山も早や長すぎるやうに悲しく四五日にて早々家に歸へりたく成り歸へりたる上は



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

前よりも信切に仕へ申せば我夫も亦た信切にいたわり玉ふやうに成りつまりは一家の幸ひ夫婦のたのしみに候その元はたゞ〳〵少しの間だ別れ居りたるゆえに侍る西洋の夫婦數への文に夫婦は時々別々に遊べ妻は元の女學校に四五日滯留するなど特に宜しとかあるよし承はり候が即はち此の道理を申すことと感心いたし侍る妾わ如き氣儘ものにてさへ斯く經驗いたし候へば世の多くの淑女方には尚更と存じ候何卒良人方も此の道理を辨まへ玉ひて數日の遊山を其御令閨方に御ゆるしあれ左らば御令閨方が一層の愛を起し玉ふのみか殿方も亦た其の御留守中に多少は不自由を感じ御令閨のありがたみを御悟りなさるべしと存じ候おなかしこ。

〇女はくよ〳〵するが長所なり　是空子

女はくよ〳〵すると云つて毎度殿方がお笑ひになるが、抑そも此くよ〳〵する所ろが即はち女の長所なるものを、成程女と云ふものは心配の多いもので心配と云ふは大方の女の名字の如きものである、目附を見て心配し言葉附を聞て心配し樣姿風を見て心配し持なし風を見て心配し、心配の餘り邪推し邪推の餘り厭憎し厭憎の餘り敵きの如く怨み、あゝだらう此うだらう、此うなんだよ那なんだよ、切度此言ふつもりなんだよあゝでは無いんだよ、厭だよ、口惜しい、怨めしい、忘れはせぬぞ(此處らで即ちドロ〳〵と出る也)、と先づ如此き心配で胸は張裂くるもの也、殿方より御覽になれば實に可笑しひでせう何んだ積らないと思し召すでせう夫のみか之れだから女と云ふものはイカン迚も男に比べられない實に小人の類虫だナとお考へもあらう、然し善く御考へなさい男と云ふものは亂暴なもので喧嘩が好だ酒色の奴隷だ人を殺し盜賊をする妻子の衣食を剝ぐ國家の亂を興す天下の太平を破ると斯樣に申したらば何如あらん、何にても其の惡くなれる方を見れば何者も惡しゝ然し若し其の善き方を見れば何者も皆な其善き所ろある也、男は武勇なるが長所ならん然し其武勇が惡しき方へ行けば亂暴となるべく女は優美なるが長所ならん然し其の優美が烈しき方へ行けば即はち詰らぬ餘計の邪推邪惡とはなる也。

夫故女の心配するは其の宜しき所ろにて、其のくよ〳〵とするが反つて其の長所なるべし、玆に病氣に難やみて苦痛困痛するものあらんに女は之を見て極て平氣で、ソンナに女らしくお泣なさるな少とシッカリなさいぐづ〳〵なさるな、などと言われては實に閉口にあらずや、又世の中の憂悶に勞れ果

て丶家に歸るとき細君は中々の演說家で雄辯を揮つて利害得失を論じ、ナニ夫なに言ふとがあるものかモット元氣を出すべしモット奮發興起すべし、あどと言はれては實に閉口にあらずや。女は先へ〳〵と心配する氣質があればこそ即はち又た先へ〳〵と掛念して温和なる淚だをも灑ぐとあり、試みに思へ旅行すると云へば旅で御病氣が出はせぬかと掛念し、別るゝと云へば之がもしや一生のお別れではあいかと掛念し、私しを斯うお愛しなさるに付ては御兄弟の思し召しも何如かと掛念し、則はちヨヽと泣きポロ〳〵と溢す、此邊の心配は迚も男子に出でぬ所ろで而も此類の心配を聞く男子の鐵腸は實に限りなきの慰さめを得るものです。故に世に女性あるとを必要とせず、彼が信切温愛なる慰さめを必要とせす、たゞ〳〵武骨なる松の木斗りで成立つものと思はゞ兎も角、左あくば即はち女性の心配する所ろを最とも尊とすべし、彼が或る事に〳〵とするは即はち亦た我事にも〳〵とする所以ん也、〳〵の一念蓋し女に取りての長所なるべしと爾か云ふ者也。

なんぢ惡き人を羨むことなかれ、又これと偕に居んことを願ふなかれ、そはその心に殘虐をはかりその口唇に人を害ふことをいへばなり。

## 佳傳

### ○破鏈談　"Breaking the Fetters."

みどり

第二回　悲しき元日

此年十二月三十一日、新致徒の面々はモレルスと云へるマリーが親なる人の邸に集まり親睦の會を開くと聞えたり、マリーは早くより入口に立ちて彼の人は最早や來るべきかと望み居たり、湖明かき月光にて彼方を見れば或る人は來りぬ扨こそチーンあり、彼は人に先だちて來りたるがフト立留まりて靴の紐を結ぶやうなり、然るに奇しむべし影の如く幻の如き一個の黑躰チーンが後を慕ひ來りしが、彼が立留まると共に亦た進行を止めて暗然として滯られり、マリーは一喜一疑、思はず趨り出でゝ、チーンよ後より來るものは誰ぞ、と問かくるにチーンも直ちに後ろを顧みるに最早何者をも見ず、彼は快よくわらひて何か夢でも見玉ひしならずや左あらくば余が影にてもあるべし、と云ふにマリーはすこし激すると云ふ躰にて否な〳〵確かに認めもうしぬ何やらん不審に佞と云ふにぞ、チーンは二三間後がへりして彼方此方を見るに一物を見ず。

歸り來り共に室內に入りてチーンはマリーを抱き、此は是れ

余が后世の妻マリーにあらずや何如なれば左樣に物に懼れ玉ふやと云へば。決して妾が爲めには恐れ侍らず只だ君が爲にのみ恐るゝと答ふ。然らば兵卒が我等を捕うるを懼れ玉ふにやと云へば。マリーは泫然として泣き此后何事か出來て吾等が間を立ち離たんには何如にすべき左れど斯ると申したりとて母上に話し玉ひぞ女々しき女ぞと思はれんとの苦しく候。ヂーンは男らしく笑ひ何物か能く吾々の間だを離ち得べきぞ明一日の集會なりとて例の如く用心を堅固にし物見を備へスハと云はゞ直ちに逃れ得べき樣にすれば決して憂うるには及ばぬあり。マリーは倘ほ痛みたる眼を擧げて左れどレックエの地は尤も不便の地にて集會には極めて不用心なりと聞つるものを明朝彼處にて開かれんと云ふは倘更ら心ぐるしく候。ヂーンも亦た些さか嗟歎し然らば君は余を引止めて彼處には行かざれと申さるゝにや余は友人に離れて只だ一人此に臨まざるがよしと申さるゝにや。

凡そ愛情は幾分か人の心を幼ならしくするもの也況して愛情の尤も切なる女性に於ては其の全心を凝めて愛する所ろの人と語り而も其人の一身に付て極めて心配するときは常には雄々しき武けき心にも其時は最と淺墓なる言だに申すことあり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

左れど後に至りて之を考ふるときは固より大ひに悔ゆることあるべし實に弱かりしと思ひ出すこともあるべきが反つて此れ愛思の切に至りたる人情の天眞なる所ろなるべし。

マリーも亦た其の幼ならしき愛慕の痴言に陷いりたるなり、左れど「然らば君は余をして友人より一人離しめんとするか」と問はれたるとき乍ち彼が本然の勇氣現はれ出で、心中に輝きわたれり、心中乍ち明光々として斯の如く答へたり

否な〳〵ジーン、許し玉へ今は何を申せしか自から悟り申さず今晩は長く留まり玉へ然れど明朝其の集まりに行くことを決て〳〵止め玉ふ勿れもし君は君の父や妾が父よりも勇ならず又其他の多くの人よりも勇ならずとあらば妾は何如にしてか君を愛することを得べき、否な〳〵ジーン妾は君を助けたしとこそ思へ君を彼の會より引止むることなど決してなし〳〵。

ジーンは謹んで之を謝し若し君が眞の愛しあらば余は天下の何物にも敵對ことを得べしと云ふ。マリーは霹靂の後ち尙ほ多少の細雨を落し、左るにても何事何故とは知らず今日此頃はたゞ何となく恐ろしくのみ感ぜられ侍る今夜も君は來り玉はぬかと思ひつゝ半ば憂ひ半ば恐れて外面を見てゐるとき彼の不思議なる人影ありて恐懼一時に發し最早之が事の終りかと思ひ侍りき明朝君は必らず行玉へ必らず行玉へ左れど何となう之にて最早お目にかゝることは出來まじきやうに思はれて悲しく侍るとさめ〴〵と泣くぞ乙女の眞情なるべし」、奇しむべし此時亦た彼の一黑躰は現はれたり、戸外より窺ひ窓の下より窺がひ或は屈み或は伸て切りに彼等が談話を聞たりける」。

翌年一月一日、人は新年の祝ひに忙がわしきなり、茲に新敎徒の面々は兼ての約束に從がひニスメの町の北門を出でたる所ろ石を多く切出す石穴の内に於て集會すべしとて思ひ〳〵に身をやつして竊かに彼所に參りたりし、抑も此の石穴はレッケーの石切場と申して穴特の外に廣く多くの人を容るゝには極めて都合よき所ろなり、左れど若し其入口より萬一にも襲はれたらんには彼の斷岸絶壁の石屛風を登り行くの外に他に逃れ途はあらず昨夜マリーが心配したるは實に之が爲めにてある也。

左れば宗敎上の熱心は數多の新敎徒の面々を驅りて朝まだきより三々五々彼處に來り會しぬ、既に時至れり、物見は程よき所ろに立つて萬一の合圖を爲さんとす、熱心なる牧師ポウル、ラバウトは今や小高き所ろに立上れり、窟内隱沈として



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

正氣凜潔たり、此時乍まち一聲の合圖響き渡ると同時に會衆一時に混亂混沓。

チーンは其父と共に並び居たるが、此の合圖を聞くと共に同時に飛上れり、父は乍まちチーンに聲を掛て夫を直ぐ上へ登れ眞直に行け己は後から直に行く。チーンは乍まち身を轉じて登り行けり父も亦た其後に沿ふて行けり、途にマリーが父なる彼のモレルも困勞して石を攀ぢつゝ行くチーンは之を助けて登り行けり。

辛ふじて絶壁を登りたり彈丸は霰の如くに後ろより飛來れども只だハッシ〱と岩を碎きたるのみにて幸にして身に傷を受けざりき然るに絶壁を越へ町の門に着したるときはチーンは彼のモレルとのみ伴なひたり老父は見へざるなり。

チーンはモレルに向つて云ふやう吾々は幸にして逃れたり君は早く家に歸りて安否を知らせ且つマリーに余の恙がなきとを聞かしめ玉へ、モレルは則はち家に向つて走り行けり、チーンは此處にて父を待つべしとて門の傍らに立つとき彼のラモントは來れり、蓋し今日の急激なる捕縛を案内したる而も何事をも知らざる如くにしたる、彼の器械發明の手柄の爲に人を害せんとするラモントは來れり、來りて此のチーンが恙がなきを見て何よりも喫驚したり。

ラモントは驚ろきつゝチーンに言へり、君が父は捕へられたり然るに君は逃れて父は老躰よて船推の罰を受らるゝことと實に痛まし。ナニ父が捕へられしと其を確かに御存知なりや。言ひつゝ彼は走り出し、勿論石穴の方に走り出せば、果して老父が捕へられて二人の兵卒に引れ行くを見たり。

# 小說

## ○理想紳士

月の舍しのぶ

### 第二回　他人らしく思ひたく無い。

雨尚ほ止まざれば吾等は元の如く庇の下に立ちたり、少年は特に壁にもたれて沈默し一言をも話しかけざりしが、少しの風サト吹寄せて此方を冷たくせし時、彼は直ちに余が傍らよ來りて余が上衣を引廻わし、鄭寧に介抱し吳れたり、其時初めて申しけるは、

貴君は餘り強く御座らんやうです。

ア、左樣です。

斯て彼は向ひ側の大ひなる邸宅を眺めたり、勢ほひある目附を以て眺めたる此の邸宅は當市の市長の住家にてあり、石段

は高く入口は廣く十四の窓大抵は閉ざして只だ其一つ開れ、此の開ひたる窓より數多の子供の頭らを見せたり。余は知己にてはあらぬが兼て此等の子供を見知りたり、彼等は皆な此の市長の子供にてあるなり、素より此の市長は代言人にて余が父は柔皮匠たり、市長は舊來の教へを信じて教會に屬し父はクヱーカル派にして友會に屬すれば、勿論交際の上にて彼等を知りたるにはあらで只だ見知りたるなり。然れば彼等は吾等が雨に苦しめられて最と憫れ氣に此處に立つを見て反つて面白きとに思ひ、吾等が寒氣の爲めに身震ひするを見て彼等は反つて自身の境界の樂しきとを思ふなるべし。余は少しも之を怨めしとは感ぜざりしが、此の家もあく宿る所ろもなき貧しき少年は、彼等が極めて樂し氣なる有樣、彼等が喜ばし氣なる笑ひ聲、彼等を呼集むる馳走の知らせの鈴を聞くとき、彼は心中に於て何如に感じつらんと、眞に氣の毒に思はれたり。

此時稍や年取りたる一人の乙女が端あく亦た窓より顏を出せり、余は之をしも見知りたり彼は當家の子にあらで他より暫らく客とあれるものなり、顏を出して吾等を見たるが見ると其が儘直ちに見へずなりぬ。暫らくして向ひの入口の戸半ば開らくとき戸の後ろに於て何やらん爭ふ聲の聞えぬ、間ひの街道の狹ければにや其聲ハツキリと聞えたり、

遣ります、遣りますと云へば、私しは。

イヽヱ左樣なとを爲つては、コレ瑠珠さん、いけませんよ。

夫でも私しは遣ります。

乍まち開かれたる戸の後より彼乙女は現はれ出て、片手に大なる麵包、片手にナイフを持ち、ナイフもて麵包を切り差出したり、

之をお取り、其處の少い方、大層餓てお出での樣だ、お取よ。

此時下婢は無理に乙女を後ろに押込み、戸をピシヤリと立切りたるが、此時高く一聲泣叫びたるは何事ぞ、嗚呼後に至り之よりして數多の物語りを生ずるなり。

此聲を聞て少年は太たく喫驚し見凝めたるが、復たび亦た聲なければ彼は靜かに街道を横ぎり、石段の下に落したる麵包の一片を取上たり、此は是れ小麥の麵包にて彼は蓋し生來未だ一度びも口にせしとあらざるべし、取上たるが直ちには食わず、何やらん切りに考ふる樣なりしが扨てこれを食ぶるにも極めて靜に極めて遲く、其間だ何か心中に大ひに思ふ所ろ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

あるやうなりし。
雨止たれば彼は余が車を推して行けり、余は何か話ししたしと思ひつゝ先づ、
お前は實に丈夫でいゝ……
と言ひ了らざるとき車は突然傍へ曲られたり、此時早く彼時少しく遲し、兼て亂暴なる武之助氏は一散に馬を驅つて走れり、彼は横柄にて途中如何なるものあるとも蹴散らして馬を行る、最と惡々しき少年なり。動氣を靜めて言ばを續ぎ、
ソンナニ丈が高くて、そしてそんなに强くてサ。
私しですか、私しは丈夫でなくては成ませんのです。
ナゼ。
ナゼッテ、食物を得なくては成ませんから。
言ひつゝ廣き肩を聳やかせ、兩足をシッカリと踏しめ、目前の世の中を承知し盡すと云ふ樣躰にて、只だ二本の手を揮つて万事を懼れぬと見する有樣なり。
近頃は何をして働らひて居たノ。
何でも手當り次第です、私しは之と云ふ商賣を習ひませんから。
夫ジヤア、何か一つ習ひたいと思ひますか。
少しく答へを遲疑したり、將に言はんとする所ろを思案するが如くありき。
一度は斯う思ひました、何卒私しの父の樣になりたいと。
お父さんは何でしたか。
學者で紳士でした。
此返答は意外に私しを驚かせざりし、抑そも余が父は柔皮匠にて而も商賣の尊とむべきとを毎度話されはしたるが、左れど亦た血統の善きを善しとするとは父が常に申されたるとにて、凡そ他の事情を同じきとし、一二の稀れなる場合を取除きて見れば、紳士の子は商賣人の子よりも多く紳士となるべし、是れ普通一定の規則の如くなり、左れば余が父も祖父も同じく商賣人にてはありつるが、其初めは然らざる紳士ありし、先人には曾て「紫石島」と云へる書を著はしたる人もありしとて父は其人の名を取て余を文太とせられたる程なれば、余は此時少年の話しを聞て實に〳〵尤もなりと思ひたりき。
余は話しを續ぎ、
夫ジヤア、お前は商賣を仕たくなからう。
ナアニ致しますとも、商賣を仕たからとて何んの關係がありませう、私しの父が紳士であつたと云ふとに。

そして御前の母は。
彼は横に向けり、頬は熱し、唇は震へり。
母は死にました、然し他人が我母の事を話すを聞くのは好みません。
余は許しを乞ひたり、且つ彼は其母を愛し亦其母の爲に苦しむとわりと知られたるが、而も身の困難なる經歷に由りて彼が幼ならしき感覺は既に老熟し其の愛と痛苦とを能く隱し得る程に至りたるとは知られたり。扨て余は、然し吾々は何卒他人らしく思ひたくなしと云ひけるに、
左樣思ひあさるの。
言ひつゝ少年が半ば驚ろき半ば有難がりたる輝いたる笑ひ顏をしたるが、其の笑顏は當時余が心の底に迄で徹れり。
お前は此邊に度々來たのですか。
度々です、此の三年と云ふものは、唐花草を摘んだり、林檎を取たり、小麦を刈たり、何でも其時々に一番に好いとをして居ましたが、此の夏計りはチブスに罹つて働らけませんでした。
其時は何如したの。
直る迄で小舍の中に寢て居ました、今はモウさつぱり直りました、御心配には及びませんよ。
イヽエ、私しはそんあとは少しも思やアしあい。

## 寄書

### ○文苑（三）　　鈴木弘恭大人撰

水石契久　　村上小枝子
いく千代も契り替らぬ水と石は久しき御代のためしにやせん
同　　中島ちゑ子
神代より契りひさしきいは志水いく千世かけて澄なかるらむ
同　　池澤花子
をさまれる御代のためしはかくなれや幾世か澄る岩のまし水
同　　板倉増子
千とせふる巖のね山の石清水ながれての世にさかえゆくらん
同　　平井玉乃子
萬代もかはらぬ水のさゝれ石きみが千とせのかずと見ましを
同　　島田長子
あら磯の波のおとさへたえせぬはひさしき御代の驗なるらむ
同　　田中榮子
岩間よりわき出る水のたえせぬハ君か八千代のしるし成らむ
同　　田中淵子
ときはなる岩間につねにこゑたてゝ君が代いはふ山の瀧つせ
同　　松本藤子
萬代もかはらぬ御代になすらへてちきり久しきにはの石みづ
同　　丸山昌子
いく千代もかくて榮えむきみが代ハ岩間の水の濁りなければ
同　　岡田みよ子
巖ありぶみだらし川ハ八千代までつきせぬ岩ゝ水そゝぐなり
同　　田波みほ子
岩清水あせぬを見ればやちよまでいかに久しく契りおきけむ
同　　田波さだ子
千とせふるいは間をおつる玉水に猶よろづ代の影ぞこもれる
同　　小高景子
幾ちよを契りやおきしいはまより流れてかゝる山のたきつせ

## 新報　(此の欄内自由に轉載を許す)

○明後日の憲法發布式

明後日の憲法發布式場に於ては、皇后陛下は玉座の右側に高御座を設けさせて、此の尤も祝すべき大式を御覽遊ばさるゝと云ふ、總べて品德を此の陛下に倣らひ奉る我日本の女性全躰は亦た同日同時遥かに宮城の正殿を望みて、此の古今に絶するの盛典を感謝し奉まつらざる可らず、府下の多くの女學校に於てはそれ〳〵に祝會を開きて謝意を表すると云へり、實に喜ぶべきの用意にして、女學の此く迄に進歩したるを見れば殆んど感泣する計りあり。

○ハシカとカゼ

此頃ろ麻疹の流行するとに付ては少さか注意を述置きたり、然るに之と同時に甚はだ性の惡き寒冒が流行るやうあり、必竟京濱此頃ろの陽氣は只ならぬとと見へたり。傷寒論はカゼを戒しめ、吉益東銅は万病唯一と云へり、西洋醫に聞て見ても實にカゼが恐ろしきなり。女學子毎度之に侵さるゝ、然れども侵さるれば直ちに伏して直ちに癒ゆ、之を以て弱質の割りに他の病症を出さず、然るに今度の寒冒にはほと〳〵閉口したれば、くれ〴〵も諸君に注意し參らするもの也。蓋し此頃ろのハシカとカゼとは相ひ同伴して騒ぐと見へたり。

○神前佛前に藝娼妓は横行す

苟くも社會の真心を明らかにせんと思はゞ、先づ人の公けに見る所ろ人の公けに聞く所ろより彼の不道德なるものを退けざる可らず、然るに我國現今の社會に於ては不道德あるものが先づ最も先きに公見公聞せらるゝの地に出張する也。平生謹慎らしき人も他と談話する時には特更らに放蕩遊與の事を語る、家には妻子と滑らかに交れる人も公けの場所に出れば藝娼妓に戯むる。更らに之よりも甚しき、彼の祭禮と云ひ堂寺と云ふ如き尤も人の目につくの時及び所ろに於て多く藝娼妓を出すの惡風に至ては抑そも何事ぞや、藝妓金棒を引き娼妓屋臺に從ふて初て靈驗あるの神は抑そも何如なる神ぞ。何々新宿の何々、何々橋の何々と云へる尤も汚らはしき名を記るしたる張灯手拭を奉納せられ、之を靈前に掲げしめ、之の多きを以て繁昌ありと誇る佛堂には果して何如なる佛が宿れるにや。嗚呼日本の神佛は淫亂の子か、抑も亦淫亂の父か。

○名古屋の女學

尾州名古屋の女子教育は大ひに注意せねば成らぬ事情あり。同地近邊の女風特に宜しからぬ折柄、前年縣立の女學校は縣

會の議決に由て廢止せられ、妓樓を禁止せんとする建議文は其の草案を妓樓に於て取還されたり。左る程の事情あれば同地の女子敎育は隨分に大切なり、同地の女子敎育にして隆んならば東海全道の女學も幾分か引いて起るべき也、左れば吾人は此事の爲に祈る甚はだ切なりし、且つ現存する愛知女學校名古屋女學校淸流女學校の如きが益々成功せんことを祈る亦甚はだ切なりし、然るに今度尾州藩の舊主德川義禮公英國に於てユニテリアン宗を信じ、歸朝の後信仰益固く此頃ろ府下に於て同藩出身の信徒二十餘名を集めて宗教上の初會を開かれたり、而して此會が尾張一國を感化するに力あらんとは會の內外の人の尤も熱望する所ろと云へり。名古屋の女學も蓋し多少の影響を蒙るべき也。

### ○女子の繪畵

此頃ろ府下葺屋町の東陽堂にて、東洋繪畵會の繪畵展覽會を開きたり、多くある繪畵中に女性の筆に成れるもの特に多し、其の多き中に付て跡見一流の畵、就中玉枝女史の鶴の如きは實に上出來なり、米仙景亭等の名手に成れるものと對比して左程の懸隔なきに至りたるは、女子の繪畵も亦た大に進みたる哉、而して女子が繪畵に巧みとなるは實に喜ぶべきの運と云ふべし。

### ○正誤

前號に揭げたるスピンチル氏「天下の女子」の演說は每月第一水曜日午後四時より開らかる、傍聽は女子に限り、男子は特別に入場劵を貰ひ受くべしとの由なり。

### ○倫敦東端の府女民女皇陛下に歎願す

倫敦のイーストエンドと稱する貧民が住居する町に於て夜間何物とも知れず婦女子を殺害し其の內臟を取去るものあり府民惣べて激昂し其の罪犯人を探索せよと迫れども今に尙ほ之を見出す能はず然るに其後に至り又々二人の婦女子を同樣にして殺ろしたるものありければ去十二月右東端町の婦人四千五百餘名は連署して女皇陛下に歎願したり、願書中に云へらく吾々四千五百餘名の者は人々皆な番人と爲り人々皆な出來得る限りを盡して彼の不道德は如何なる生涯に迄て導びくやを男性諸君に懼れ想はしむべし（蓋し彼の殺されたる婦人は多は密賣淫の女なりしかば斯云ふ也）然れども陛下も亦有司に命て兼て制定せられたる條例を斷行し彼の男女を墜落せしむる卑むべき惡き家々を府內に存せしめざる樣嚴密なる取締を與られんことを願ふと、然るに內務大臣は書記官をして之に答

書を送らしめて云ふ願書は直ちに陛下に差出したるに陛下は御感斜めならず候且つ申す內務大臣は諸夫人が各自に盡力せられんとするを聞て甚だ信任致し各自が其の家の近邊に於て各々其の善き感化を與へられんとを望む且つ警視部の役員に通報し諸君が盡力に助けて所云る惡事の消滅するとに共同すべしと申送りたり此旨御答迄に申進ず云々とありし。

○女性が女性に於ける傳道の會社

倫敦に"Woman's Mission to Women"と云ふ會あり、之は一千八百三十六年に設立したる女子救助會並に一千八百五十八年に設立したる婦人傳道救濟會等の合併したる婦人會にて、カンターベリーの大僧正之を助け、エイルサ伯之に會頭と爲り、專ぱら婦人の信徒を街道病院職工場等に送りて女性の墜落したるものに近づき之を救濟せしむるとを務むるもの也。此頃ろ此會の報告を見るに當今傳道局五つ、倫敦府內の所々に置たる二十の働らき場、欺れて都に上りたる如き女子を救ふ七十八人分の供給あり、又た墜落せんとする女子を救ひ善き家の奉公口を求め遣はしたると過る三十年間に六千四百○二人、懲治の爲に敎育したるもの六千三百七十五人、墜落したるものを懲治し之を親戚に返したると一千七百六十四人、之を世話して婚姻せしめたると七十五人あり云々、而して年々の入費は三千六百二十一磅(凡そ一萬八千百○五圓)年々寄附金千五百六十三磅(凡そ七千八百十五圓)故に二千○五十八磅(凡そ一萬二百九十圓)の不足ありとぞ。

○華族女學校　は兼て建築中の處大概落成せしに付き來る三月には移轉式を執行さるゝ都合なる由にて同校跡へは諸官顯の發起になれる女子敎育奬勵會を移さるゝと云ふ。

○看護婦人傳習學校　曾て赤十字社內婦人看護會の計畫に係る看護婦人傳習學校は假りに同社內に設置し本社新築移轉の上は同所を以て本校に充つるとに內決せる由。

○女生徒の看護　櫻井女學校生徒大關ちか子櫻川ゑん子の兩女子は大學第一醫院にて看護法を修業せし人々なるが過日帝國大學寄宿舍燒失の際負傷せし學生の爲に自費にて看護なし度旨帝國大學へ願出で早速許可を得て熱心に看護に從事し居らるゝ由。

○女生徒の洋行　築地基督敎會附屬の女學校にては此度同生徒中より品行方正にして學術優等なるものを撰拔し米國へ留學せしむる由にて已に生江樁子外一名は其の撰に當りたりと云ふ。

○演藝矯風會　にては過般委員會を開き諸事を協議せしが今度更に組織を改正するとに決し委員中より大槻修二、高田早苗の兩氏を起草委員に撰擧したる由。

○美術學校　東京美術學校にて募集に應ぜしもの百三十八人入學試驗を受たるもの百十四人及第せしもの五十八人、府縣の特選に係る者二十三人中十五人、合せて六十五人の入學ありて去る一日より授業を始められたり。

○第三回美術展覽會の出品題　大日本美術協會にては來る四月一日より彌よ第三回美術展覽會を開く筈なるが同會への出品物は題を與へて調製出品せしむる由にて夫々會員へ通知せり而して其題は水石長久、磨き患、智の三題なりと。

○東京府會　去月廿九日より開會の通常府會議案中貸座敷引手茶屋娼妓の賦課税は區部十萬五千四十二圓郡部三萬九千七百五十圓にて此の項に付ては各常置委員は別に修正を加へざりし由。

○女子演説會　去月三十日京都祇園大市座に於て女子學術演會を開かれたる由なるが會主は渡邊謙助氏にて辯者は岡崎とよ子（女權伸張の方策、敢て紳士令孃に望む）塚出よう子（世の夏人よ告ぐ）の兩女史にして傍聽無料なりしと云ふ。

○女學校の麻疹　横濱山手二百十二番共立女學校の生徒中過日來麻疹に係るもの多く既に廿五名程へ感染せしを以て一時休校せし由なるが尙ほ聞く處に因れば同地山手百七十八番フエリス女學校にも當地麻布鳥居坂なる東洋英和女學校にても多數の患者を生ぜし由。

○京都高等女學校　は來る四月より補助金を受けざる爲め從來より早く生徒を莾集せしが去月十一日始業以來月末迄に廿五名の入學を許可し尙ほ昨今日々二三名づゝの入學者あれば三月中には滿員すべき見込なる由。

## 外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○拿破崙三世の皇后　にして當時歐洲一の美人と稱へられ帝の沒落後は英國に在りて餘命を送るユーゼニー后は近來僂麻窒斯病に罹りたる爲め當分相關に赴き按摩療法を受け居る由英國の如き濕氣多き國を去りて他の健康に適せる國に住ひなば病氣全快に赴くならんと醫師は孰れも申合ひ居れど拿破崙三世埋骨の地を去るは后の堅く否む所なるを知れば誰一人此事を后に申出づる者なしと云ふ。（一月卅一日時事新報）

○女丈夫十二名　パルマルブッヂエットか世界にて最も優れたる女丈夫十二名の投票を求めしに其の結果は左の如くなりしと云ふ。

事業家六名　セミラミス女王、エステル女士、墺太利女帝マリアテレサ、露西亞女帝カサリン二世、西班牙女王イサベラ、佛蘭西のジャンダーク、

學術家六名　サッポー女史、ローランド夫人、ドスタール夫人、ジョージエリオット女史、ジョージサンド女史、マーガレットフルラー女史

## 小供談

○豆腐の上の相撲

支那の廣東と云ふ所ろで、支那人の手使品ひが高慢らしく風聽するには、私しは豆腐の上で相撲を取ります、之は天下萬國何處に行ても無いとて、只だ獨り支那國中華の人にのみ出來る手品でありますと云ひつゝ八疊敷程の大きな豆腐を擔ぎ出させ、試みに棒を取てチョイ／＼と衝いて見るに極軟らかさうです。御覽の如くに軟らかなる豆腐の上で之より相撲を取てお目にかけます、と言ひ乍ら素裸に成つて大の男と相撲を取ました、ヂタバタ／＼と騒ぎ廻つて踏み暴し升たが彼の軟らかな豆腐は、不思議やな／＼少しも破れません。見物人は一同に手を叩いて賞めた、支那人は鼻を高くして見廻ました、どうも中華の人でなくては出來んと再たび言つた。スルト見物して居た日本人で神田の兄哥何の何某と云ふ仕事師が飛んで出て、何のこれが珍らしいものか、己等日本人にはソンナとはへノへ（大工の符徴なる由）だ、コウ日本に來て見な、豆腐の上の相撲どころか、酒の上で喧嘩するものがアラア。

わがもろ／＼の敵はあなどりを衣おのが恥を外袍のごとくにまとふべし。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夜具にて被はれざる樣注意すべきことに候。

**室内光暗のこと**

問。夜間孩兒を眠らしむるに室内の暗き方宜く候や。

答。然り。室内の明きよりは暗き方安眠を得らるゝものに候。育兒室の設け之れある時は其室は孩兒に當てたるを以て明くも暗くも自由に致さるべく候へ共其設け之れなく同じ室内にて夜間の業をなす等の場合には屛風を以て光を遮ること簡便のことと存候。

**孩子を臥させる位置のこと**

問。孩子は何れを下に致し臥さしむべく候や。

答。常に同樣の位置に臥さしむるは宜きことに之れなく候へば或夜ハ右を下にし或夜ハ左を下にし又折々は仰臥に致さしむる樣にせらるべく候。

**行水のこと**

問。早朝孩兒の覺寤たらは直に行水を致たし衣服を附け候て然るべきものに候や。

答。朝覺寤たる後再び眠りに附くは害あることにして毎朝明くなりたらば成るべく寤しむる樣に致すべし。斯くして晨起の習慣を附くる時は生涯之れに馴染むものに候。大事業をなしたる人高老に至りたる人にして朝早く起きざるは稀なり之れ晨起の人生に益ある推して知らるべきことに候。故に早朝孩子の覺寤たらば直に褥の外に取り行水をなして衣服を着せしむべきことに候。孩兒の褥より出でたるの後には夜具臥衣の如きは日光若くは空氣に曝さるべく候

**獨臥と添寢の事**

問。孩兒は獨り臥さしむると添寢すると何れか宜く候や。

答。孩兒の斷乳したる後にハ獨り臥さしむる方安眠するものに候。衣服を着替させ或は藥劑を飲ましむる等の爲めに睡眠を破らしむるは宜しからず成るべく孩兒の自然に寤るまで待たるべく候

**孩兒の安眠せざる時**

問。孩兒の安眠せざる時は如何致すべく候や。

答。孩兒の安眠を得ざる時は充分に戸外運動をなさしむべし。身躰を運動して疲勞を覺ゆる時は能く安眠するものに候。

## 運　動

**運動を營む關係の事**

問。身躰の運動は如何にして營まるゝものに候や。

身體を強剛とするには運動の大切なること

答。身躰の運動は骨と筋肉とに由て營まれ、其關係恰も挺と之れに加はる力との如く骨は挺の要をなし筋肉の收縮するは之れに加はゝる力に等し、筋肉收縮して其力骨に傳はり、其骨の運動するに由り吾人の身體も運動するものなり、故に筋肉は運動を起し骨は其力に由て運動せらるゝ器械に御座候。吾人の日常食する牛肉は即ち筋肉にして牛の四支及身體各部を運動する爲め諸骨に附着し居るものに候。

問。身體の剛柔强弱は何に由るものに候や。

答。身體の剛柔强弱は專ら筋肉の如何に由り、其筋肉の强弱は其官能を怠ると然らざるとに由るものあり。人若し右手の筋肉のみ多く使用すれば其右手のみ著く剛强となり下肢のみ使用すれば下肢の著く剛强となるを見るべし假令ば鍛冶師の右手に於ける搗臼を踏む者の下肢に於けるか如し。又レンゲル氏はパヤキウァス印度人の下肢細くして上肢の肥きは常に小舟中に生息して歩行すると少く、專ら櫂のみを使用するに由ると云へるも。又

運動に由て新陳代謝の機能を盛ならしむること

ハーバート、スペンセル氏の野蕃人は調理せざる粗野の食物を齟嚼くより咀嚼筋及下顎骨の發育善良なりと云はれたるも此理に由るものなり。又本邦の角士は全身の筋肉を頻りに使用するよりして其肥大剛强を來たしたるものに候。之れに反し關節に疾患あるか若くは神經の痲痺するよりして一側の上肢若くは下肢を仕用すると絕て之なき時は其患側は健側に比較して甚た瘦削なる者に候。

問。運動は筋肉を强剛にするの外効能なき者に候や。

答。運動は筋肉を强剛にするの外身體の榮養に盛あらしむるに大切のものに候。其大切なる以所は身體を運動すれば血液の循環速となり、從て消化を進め滋養物を血中に接取すると夥く又呼吸を增し酸素を血中ゑ吸接すると多し之れに由て全身の新陳代謝機能を盛ならしむるものに候。故に身體を適宜に仕用するものは身體强剛とあり疾病に罹ると少く、安閑逸居身體を運動すると少きものは身體虛弱にして疾病多きと偶然にあらず、殊に孩兒は精神の發達よりは肉體の發育肝要の時期なれ

運動に自動と被動との別あるヿ

ば之れに運動をなさしむるヿ決して怠る間敷き儀に候。

問。孩兒の未だ歩行するヿ能はざるものと既に歩行するものとは運動の方法も自然異るヿと存候。如何のものに候や。

答。身體を運動するに自動と被動との二樣之れあり即ち歩行、躰操をなすが如きは自動にして車に乘り或は人に負はるゝが如きは被動なり、孩兒の歩行出來ざるものは被動の方法に由らざる可らず即ち育兒車に乘せ或は腕に抱き或は脊に負ふて運動せしむべく候。

育兒車のヿ

孩兒を育兒車に乘せしむれば保姆に勞なく外觀美なり、然れど未だ歩行し能はざる程幼少の孩兒を之に乘せる時は車の運轉する每に其頭首或は左右或は前後に動搖し決して孩兒に快きものにあらず、又往來の繁しき場所にては或は往來人の足を挽き或は車馬ヱ觸れ或は車馬を避けんとして急に育兒車を運轉し孩兒に劇動を與ふるの恐れあり、又孩兒を抱き或は之を負ふ時は保姆の躰溫に由て孩兒を溫めるヿを得べけれ共育兒車を用ふれば此等の利益なきものに候。

孩兒を抱くヿ

孩兒を腕に抱き戶外に運動をとらしむるには孩兒を抱く手を時々換へ孩兒に窮屈を感ぜしめざる樣にし、又孩兒の衣服悉く胸に滑り上り下肢の全く露出する如きヿこれなき樣注意せらるべく候。

孩兒を脊負ふヿ

或る西洋癖の人は孩兒を脊に負ふヿを野蠻の遺風として嘲れども之は孩兒の健康にも保姆の便利にも相成候得ば國粹保存の一部として取り用ひらるゝヿ宜き儀と存候。第一孩兒を脊に負ふ時は保姆と孩兒と同じ方角に向ふを以て保姆の眼に觸るゝものをば直に孩兒に觀せしむるを得べし。第二孩兒の身躰は保姆の身體に能く附着するを以て之を溫保するの益あり。第三には本邦の衣服は下部開放するを以て孩兒を抱けば漸次其衣服胸部に滑り上り下肢を露出し寒冒に罹るの患ひあれども脊に負ふ時は此等の患ひなし。第四には保姆腕に孩兒を抱くよりは之を脊に負ふ方は疲勞少くして久しく之に堪るを得べし。第五には孩兒腕に抱かれて久く眠り、其腕甚だ疲倦するときは之を他側と交換せざるを

孩兒に歩行を習はしむること

得ず、之を交換すれば孩兒の安眠を破るの恐あり、脊に負ときは斯の如き患なし。第六孩兒を脊負て疾行若くは數里を旅行するものあれども抱て之をなすを得ず。第七孩兒を抱くものは其兩手に物品を攜ひ或は手仕事をなす能はざるも、脊に負ふ時は自由に兩手を使用することを得べし。全國の保姆兩手を使用し得ると使用し能はざるとは國家の經濟にも其差些少のことに之れある間敷候。孩兒を脊負ふに細き紐を用ふるは宜しからず、地の厚き廣き布を用ひらるべく候。

問。孩兒に早く歩行を習はしむることを勉むべきものに候や。

答。母親の情として孩兒の成育を樂み一時も早く歩行を習はしめんとするは尤ものことなれども、孩兒の未だ歩行せんとする傾なきものに强て之を學ばせんとするは利なくして反て害あるものに候。孩兒の四肢漸く發育して强健となれば既に這ふことも出來、父母の身躰若くは障子抔に保持して直立せんとする傾を生ずべし、此時に至らば椅子或は大なる飯櫃籠の如きものを與へ、之に保持して直立することを練習せしむべし。漸く直立することに練熟すれば、坐したる保姆の肩に保持して右より左に歩行し或は左より右に移り或は障子の骨或は壁戸抔に手を離れて身躰の中心を平均し歩行を自然に企つるものに候。

朝餐前に戸外運動をなさしむること

問。夏日は朝餐前よりも孩兒を戸外に運動せしめて宜く候や。

答。然り、天氣の惡く之なき時は朝餐前にも戸外運動をなさしむべし、殊に市街にありては朝の空氣は最も淸淨なるものなれば其中にありて運動するは孩兒の爲めに宜きものに候。

降雨後に戸外運動のこと

問。降雨の後土地は濕り居るも天氣晴朗なる時は孩兒に戸外の運動を許すべきものに候や。

答。然り寒風吹き或は空氣の濕り居ることなければ善く身躰を保護して外出を許すべし、去りながら疾病に罹り居るもの、病後のものには外出を許さゞること勿論のことに候。又霧深き日に孩兒を戸外に出だす時は寒冒に罹るの恐あれば決して外出



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

妻此性を欠くとき

次第ならば、斯の妻君實に不幸を感ずべし、此の如き妻君必ず心中に述懐すらん、良人の妾を娶り給ひては妾を友とし給はんとには非ず、妾の心情に重きを置き給ひしにはあらず、唯一時の便宜の爲めなりしか、或は一時の戀愛の故なりしか、噫あじきなきは我身なる哉」と、若し又た妻君此性を欠くときは、良人に對して兎角冷淡にして、深く懐ふの情を示すと少なし、此の如きの妻君家に在ては良人がホームを以て、充分樂しく面白ろきものと感ぜぬは無理ならず、ホームの引力は殆んど良人に對して力なしと云はざるを得ず、是に於て、良人は繁劇なる事務に追はるゝときは兎も角、然らざれば料理店、待合茶屋、玉突場甚しきは遊廓の顧客と變ずべし、夏期冬期の休業には、妻君を殘して、飄然箱根伊香保若くは熱海に閑を消すと云ふ奇觀を呈すべし、更に夫並に妻共に此性の發達したる人なれば先づ申分なけれども、他に合性の相違する處あれば、未だ全く幸福なる伉儷を認むる能はず、何となれば愛心の如何に深き人にても、人に依りて、所謂すき嫌ひのあるものにて、好きなればしつこく愛し、嫌ひなれば更に愛せずと云ふ性なり、故に此性の合ひたる許りでは、未だ完全の合性とは申し難し、是より知識的の能力に就て少しく言ふべし、此能力の能く發達したる人は、思慮鋭敏にして、外界の物質を考察し、其關係を明にし、事物を判斷するの力に富めり、同じ智力の發達したる中にも、甲は外界の事物を判斷する力、則ち物を曉る力あり、乙は事物を考察するの力、則ち思ひ出すに巧なるものあり、夫若し前者にして、妻若し後者なるとき、或は丁度其反對なるときは、互に益する所あり、互に不足なる所を交換するの便あり、然のみならず、其の子女たる者は夫婦双方の長所によりて、丁度釣合よき夫婦を形づくるべし。

夫妻の學即知識大抵同等なるを要す

右の如き相異は別に差支なけれども、夫婦の學力、智力は大概同等なるをよしとす、妻たる者が良人よりも學問あり知識あるときには、餘程立越へて德のある婦人に非ざるよりは、夫を尊敬すると不



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

博士ジョンソンの語

足なる傾向あると必定なり、已に尊敬の意なし、眞正の愛は存し難きなり、之に反して、知識ある夫誤つて無學且つ少しく鄙野なる妻君を娶りたりとせよ、一時は他の事情より自ら好んで夫婦となりたるにせよ、とても眞に斯る妻を敬愛するとは出來ぬなり、唯に自ら妻君と語るを樂とせざるのみか、其兒供等を此妻君に養育せられ、其仕付を受けしむるを欲せざるに到らん、有名なる博士ジョンソン翁の言に

未だ妙齡にして、欲望の盛大なる時に當り、分別なく、前後の考もなく、意見の同じきや異なるやも尋ねず、先方の心術、性癖などに一向、構ひなく、夫婦となりたる人々の後にて感ずるは唯失望と後悔のみ、然るに滔々たる天下の婚姻は此の如きものなり、一個の才子、佳人端なくも相會したり、互に相眺めたり、二三の丁寧なる言を交へたり、而して家に歸れば已に互に夢む、互に相思ふたり、戀愛の情跋扈して熟慮精思を虜にしたり彼等心中をもへらく、相離るれば互に心安からず、故に相合ふて共に居るを得ば其幸福果して如何ぞやと、是に於て忽ち合巹の大禮成る矣、婚後彼等の發見する處のものは唯自分等の大早計なりしと、無暗なりしとなり、其極や一生涯唯不幸の歲月を送り、徒らに自然の無情を恨むのみ。

翁の言の如く、一時の熱愛と申す者は、永く夫婦心性の相違をかくして睦ましくあらしむると能はざるものなり、若し一時の熱愛熟して、夫婦となつたる場合には、双方の血氣も冷へわたり、紅顏の青年長く紅顏を保つと能はず、艶麗の美人必ずしもとこしへに艶麗を保たんや、故に双方年老ひて秋波の相手の顏面に浮むときには、さすかの愛情も消えて跡なく、同じく居るとさえ堪へ難く相成るべし、サテ以上心性の合性に就て述べたる所を畧して申せば、夫婦となるべき人の間に形躰の合ふとも備はり、其上に彼の最強き友情を生ずる所の心性の合ふとなからざる可らず、心性の合ひたるとは已に深くして、永久なるものにして、假令

充分學問が出來ぬも失望する勿れ

積したる財を投じて、あなた方に學問せしむるのゆえ、其心して學修せられんこと尤も大切と存ず、不幸にして豐富なる活計をなす兩親を持給はず、其上、下に弟や妹が澤山あり、已むを得ず、半途にて學校を退き、專ら一家の手助をなされ、而も學問に熱心なる方々や又は學校に通い居らるゝも、折々は家事の都合にて休み、他の生徒たちと併行することの出來ぬ御娘方に申す、決して失望し不平を鳴し給ふな、喜んで家の助をなし給へ、學校で專ら學問せずとも、心掛て少々づゝ學び給はゞ、人となる頃には大概人並の知識を得る樣になり申べし、今は昔と事かわり、種々女に係りたる雜誌も出版され、その上家に在て學問の出來る通信女學の方法も各所に設けあり、家事の閑暇に少しづゝ勉強すれば、一年と經ち二年と過ぎ三年と云ふ中には可成學問は出來べし、欲しい書冊は買へ、往きたい學校に入塾して何不足なくあるときには、却て油斷してミッシリ物事を覺えぬ弊あり、却て家に在て、弟や妹の世話をしながら忍耐し出來るだけの機會を利用し勉學して、後には天晴れ良妻賢母偉婦人となりたる例は日本支那英吉利阿米利加にも少なからず、何卒あなた方も失望せず落膽せず、進んで母親の手助となり給ふべし。

## 第三　幸福なる家を作る仕方

幸福なる家を作る五大要件

家と云ふ字の意味は已に發端にて申し置きたれば今茲に幸なる家は如何にせば出來るやと云ふ事に就き、説明すべし、サテ幸福なる家を作るに種々のもの必要なれども、之を大別せば先づ左の五大要件となる、曰く

第一、眞實なるべきこと
第二、順序あるべきこと
第三、愛情あるべきこと
第四、樂むべきこと
第五、勉勵すべきこと

一、眞實なるべきこと

一、眞實あるべきこと　先づ幸福なる家を打ち建つるに必要なるものは眞實なることなり。凡そ一ツの家屋を建築するには、第一に一人の練熟なる建築家を雇ひ來り、繪圖面より材木の撰み、工場萬事

の監督を依賴すべき筈なり、眞實は倘幸福ある家を建る建築師の如し、それと同じく一家の中に眞實と云ふ事なくば、一日も丈夫と申し難し、此の眞實と申すとは唯に一家を丈夫にするばかりでなく、此の爲には貧乏な人も金もちとなり得るなり、時としては不眞實なる一家にて世に立ちて、何不足なく榮華を極むる人もあり、其人等は假令へ外面より見れば、立派なれども內部に入りて其人々の心中に立入れば、必ず不愉快のこと多からん、一時は不義の富を得るも永くは保たじ、必ず一家困阨に陷ゐることあらん、一家に眞實の氣風行はるゝときは、啻に其人一代のみならず、其子孫に至るまで繁榮すること必定なり。

二、順序あるべきこと

二、順序あるべき事。一家にて爲すことは一々順序あるべし、假令へ如何なる些細の事にてもシダラなくすれば、實は一家の幸福を害することに相成らん、殊に此順序と云ふ事幼少の時よりよく兩親より言ひ付けて、慣習をつけてをかざれば、其小兒等が後に生長して一人前になり、公私の事務を執るとき、ヤハリ順序なく不シダラにて、甚しきは一身を誤り一家をあやまることあるべし、小供衆と申す者は、兎角使たものは玩弄物でもなんでも、其儘使ふた所に置きばなしになし置くものにて、母親が片付けよと言付るときは、イヤナ顏することなり、兩親たるものこのときに其習慣をたむること必要なり、世の中にて順序あることを欲せざる者でも、家內整頓して何一品も定まつたる置き所なき者はなしと申すべき家の有樣を見ては、快よく感ぜぬものはなかるべし、又誰にても夜分奇麗に、諸事整頓せる寢室に眠むるの愉快を感ぜぬものなし、又しだらなき人は常に物品を失ふなり、而して一家不順序なる處よりつまらなく爭ふことありがちなり、或る所に多人數の家族ある家に雇はれたる一人の下女ありけり、隨分人數も多ければ、從て用事も多きとなるに、少しも手落なく用事を濟まし居りければ、或人一日如何なる手段を用て左樣にすばしく用事の辨ずるやと問ければ、下婢は答へて外の術も御座なく、只手に當ることを



Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

# 通信女學講義錄

殘本發賣

通信女學講義錄は一冊大抵六七十枚づゝあり母親又は妻君が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫なれば二三年の後は和學、理學、地理、歷史及び子育法、女子生理、家内理學、經濟學なその一斑を居ながら學び得べき方法なりしが此度女學雜誌と合併せしに付き從來女學雜誌のみを講讀せられたる方々は中途より講義を闕かるゝ譯にて御不滿足と存じ候に付き一冊二十錢の處大勉强一冊十錢即ち**十五册**自一至十五**代**郵送料二錢に其定價を減じ**金壹圓五拾錢郵送料廿四錢**にて賣拂ひ申すべし

但し通運等に便利なる土地は實費を以て御届可申上候

右早々御注文無之に於ては欠本を生じ候事も可有之と存じ候間御入用の御方樣は成べく速に御注文可被下候

東京々橋區日吉町八番地

## 女學雜誌社

# 女子敬愛學校生徒募集

本校ハ主トシテ和洋服裁縫編物及ヒ英語學ヲ教授ス

但シ時々脩身學及ヒ婦女日常ノ心得ニ就キ口授スルコトアルベシ亦タ漢學數學ノ教授ヲモ生徒ノ望ニ應ス

芝區兼房町十三番地

## 女子敬愛學校

有限責任牧牛事業 愛生會社第貳回報告

士恩感謝當會社株主總會本月十九日ヲ以テ開會シ明治廿一年七月一日ヨリ十二月三十一日迄實際施行シタル庶務ノ顛末及諸勘定ノ各項ヲ報告セリ其提要ハ左ノ如シ

借方ノ部 會社ノ負債義務ニ屬スル分

| | |
|---|---|
| 總株金高 | 五〇〇〇、〇〇〇 |
| 內株金拂濟現在高 | 四九四〇、〇〇〇 |
| 全拂込中 | 六壹六〇、〇〇〇 |
| 全募集中 | 参九〇〇、〇〇〇 |
| 牛乳賣上代金 | 壹四九四、七壹四八 |
| 牛二冊內賣 [illegible] | 壹八参、五〇〇 |
| 賣買牛[illegible]金 | 参六五、〇〇〇 |
| 建築及諸器械保存金 | 貳九、貳九八五 |
| 積立金 | 四六、八〇〇 |
| 諸預り金 | 七八五、〇〇〇 |
| 合計 | 壹、七九〇〇、参壹壹参 |

貸方ノ部 會社ノ資産ニ屬スル分

| | |
|---|---|
| 株金拂込未濟高 | 四貳七四、参〇〇〇 |
| 全募集中 | 参九〇〇、〇〇〇 |
| 全牛拾七頭 | 参五六〇、〇〇〇 |
| 乳牛廿二頭 | 壹九七〇、〇〇〇 |
| 種牛子頭 | 壹八、七〇〇五 |
| 建築費 | 四〇貳、八五四五 |
| 諸器械費 | 壹参、六八九七 |
| 備付品費 | 四〇、七〇〇 |
| 飼料 | 四九九、六〇〇 |
| 諸牛手當 | 六七九、[illegible] |
| 營業稅 | 七五〇〇 |
| 借地料 | 貳四貳、六〇〇 |
| 役員手當金 | 参〇、参四〇六 |
| 牛乳配達人ノ步合 | 参四八、八九六 |
| 創業費 | 参壹八、八九六〇 |

右諸勘定ノ計算ハ確實ナルコトヲ保證候也

神奈川青木町字輕井澤貳千三拾番地

會社諸費 貳四七、二四〇〇
未拂込濟續金 五〇〇、〇〇〇
合牛賣買準備金 壹〇〇、〇〇〇
建築並器械保存金豫備 [illegible]
現金 壹〇、九七〇五

合計 壹、七九〇〇、参壹壹参

右損益勘定之概畧左ノ如シ

入金

第二期收入金 貳〇四参、貳壹貳八
總計金 貳〇四参、貳壹貳八

出金

諸飼料 六七九、壹九九七
種牛手當 九、壹壹〇〇
營業稅 七五〇〇
借地料 参四〇、貳〇〇〇
牛乳配達人ノ步合 参〇四、六参〇六
役員手當金 壹四六、九〇〇〇
建築並器械保存金豫備 [illegible]
諸雜費 五四七、〇壹四〇
計 [illegible]
內
創業費消却 壹貳〇、〇〇〇
損失補填 五五〇、〇八〇〇
積立金 九壹、〇〇〇〇
配當金 参五七、五四〇〇

但株一株ニ付金壹圓四拾四錢五厘餘一年一割四歩四厘五毛餘ニ當ル

總計金 貳〇四参、貳壹貳八

明治二十二年一月

愛生會社

追テ株金募集期限ハ明治二十一年一月ヨリ同二十二年八月迄ト改ム

但加入ノ儀ニ付御照會ノ節ハ左ノ處へ御送付被下度候

京橋區花咲町七丁目八十二番地

愛生會社假事務所

遞信省認可

# 交詢案內

（猶促する勿れ　郵券十錢送れ　委細に申來れ）

## ●雇ひたき方（甲）

十二　下婢　年齡廿歳か五十歳迄の基督信者を雇入度者あり

十四　裁縫　年齡廿年より三十年までにして家內の手助となり其餘を心得たるものを雇ひたし可成は基督信徒を望む但し地方なり

十五　召使　家內の手助けとなり小兒の世話をなすべき年少女子を雇ひたし尤も讀書習字を學びたき志あるものを望む

十六　召使　重に小供の世話及裁縫等にして家事の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり但官員の御內なり

十七　下婢　二十歳前後の薪水の勞を取る下婢を雇ひたし富家にて家族五人仕事はひまなり月給は一圓以上

十八　下婢　年齡廿四五歳にて裁縫讀書數學等は閑暇の節は教授致すに付き無給にて雇ひ入れたし但し基督信徒ならば教會ニ行くも家內同樣にすべし

## ●雇はれたき方（乙）

六　奉公　地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人の家にて兩人協力勉學勞働なしたき二娘あり無給にて何地にてもよろし

七　裁縫　年齡廿三にして家內の手助けとならんが爲め內職に裁縫に雇はれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき內にて宿泊出來ならば通いても宜しとの其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三　教師　栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御內にても教授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を望む

十四　洋行　身元慥なる十八歳位のものにて英漢學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて隨行を願ひたし

一九　召使　裁縫の教授を専にし其他女子學校等監督兼留守居樣の者に雇はれたし

二〇　裁縫　年齡十四五才にて華族樣か政官員方の御方之內ニ小間使に雇はれたし最も餘暇に讀書授けくだされば給料は不申受

二四　奉公　年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし質朴の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きにお公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし

二五　裁縫　裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に教師に雇はれたし

二六　學婢　學問篤志なれども資金に乏しきを以て學校又は令嬢方のお付きにて餘暇に勉學したき年少女子あり無給にてよろしと

---


**發兌**

二月。二日　九日　十六日　廿三日
三月。二日　九日　十六日　廿三日　三十日
四月。六日　十三日　二十日　廿七日
五月。四日　十一日　十八日　廿五日

**定價**

一册。六錢　郵稅。一錢（但府內無郵稅）
十册。五十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓六十九錢
一年分　二圓六十錢　府外は　三圓十二錢

**廣告**

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるのにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を揭する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行　一回　前金拾錢（廿七字詰）
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。
但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

**女學雜誌賣捌所**

東京神田區淡路町盛々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町關々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新肴町長明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○橫濱住吉町角田屋貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大阪備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋木町○石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新町々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十二年二月八日印刷
明治二十二年二月九日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.69 six months, *yen* 3.12 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

# 交詢案內

（催促する勿れ　郵券十錢送れ　委細に申來れ）

● 雇ひたき方（甲）

十二　下婢　年齡廿歳より五十歳迄の基督信者を雇入度者あり

十四　裁縫　年齡廿年より三十年までにして家內の手助けとなり且裁縫を心得たるものを雇ひたし可成は基督信者を望む但し地方なり

十五　召使　家內の手助けとなり小兒の世話をなすべき年少女子を雇ひたし尤も諸事算筆を學びたき志あるものを望む

十六　召使　重に小供の世話及裁縫等にして家事の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり但官員の御內なり

十七　下婢　二十歳前後の薪水の勞を取る下婢を雇ひたし商家にて家族五人仕事はひまなり月給は一圓以上

十八　下婢　年齡廿四五歳にて裁縫讀書數學習字等を閑暇の節は教授致すに付き無給にて雇ひ入れたし但し基督信徒ならば教會へ行くも家內同樣にすべし

● 雇はれたき方（乙）

六　奉公　地方師範學校卒業生にて學資に困むに付ては可成西洋人宅にて雇入協力勉學致度雇はれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし

七　裁縫　年齡廿三にして家內の手助けとならんが爲め內職に裁縫に雇はれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき內にて[illegible]ならば通いても宜しとのこと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三　教師　栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御內にても教授に雇はれたきものあり可成くは麹町か駿河台邊を望む

十四　洋行　身元慥なる十八歳位のものにて英漢學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて隨行を願ひたし

一九　召使　裁縫の教授を專にし其他女子學校等監督兼留守居樣の者に雇れたし

二〇　裁縫　年齡十四五才にて華族樣か或官員方の御方之內へ小間使に雇はれたし最も餘暇に讀書授けくだされば給料は不申受

二四　奉公　年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし

二五　裁縫　裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に教師に雇はれたし

二六　學婢　學問篤志なれども資金に乏しきを以て學校又は令孃方のお付きにて餘暇に勉學したき年少女子あり無給にてよろしと


**發兌**

二月。二日　九日　十六日　廿三日
三月。二日　九日　十六日　廿三日　三十日
四月。六日　十三日　二十日　廿七日
五月。四日　十一日　十八日　廿五日

**定價**

一册。六錢　郵税。一錢（但府內無郵税）
十册。五十八錢郵税。十錢（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓六十九錢
一年分　二圓六十錢　府外は　三圓十二錢



**廣告**

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐる毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行　一回（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし



**女學雜誌賣捌所**

東京神田區淡路町駸々堂〇同芝西久保櫻川町萬春堂〇同神田區雉子町團々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同日本橋區新乘町頁明堂〇同京橋區木挽町壹丁目萬字堂〇同本鄉區元富士町盛春堂〇同本鄉區春木町二丁目解明堂〇同本鄉四丁目文書堂〇橫濱住吉町角田屋貞〇同太田町三丁目萬字堂〇同日月堂〇同本町六丁目日の出屋〇京都四條通小橋西へ入淸集光堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード〇大坂備後町四丁目岡島支店〇仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部〇宮城縣仙臺大町木村文助〇尾張國名古屋本町石版社〇出雲國松江新町盛進堂〇廣島縣大手町一丁目早速社〇長崎酒屋町虎與號〇江州彥根西內大工町新々堂〇相州小田原綠町石壽堂〇上州高崎田町煥乎堂〇土佐國高知本町三丁目樂園堂〇熊本文明堂

明治二十二年二月八日印刷
明治二十二年二月九日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐



WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 sen. By post yen 1.69 six months, yen 3.12 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.




Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY